

Olympic  
Movement

＜平成27年度 ハローオリンピズム事業＞

# オリンピック教室

実施報告書

庄原市立高野中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

## 座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の  
確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験  
に基づく「オリンピックの  
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク  
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年12月10日 (木)
- 場 所 : 庄原市立高野中学校
- ク ラ ス : 2年 (20名)
- オリンピアン : 齋藤 里香 先生 (ウエイトリフティング)
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・今日の授業ではオリンピックバリューについて学ぼうと目的を確認。
- ・バドミントンの支柱をバーの代わりにして、競技の説明をしながらデモンストレーションを行う。

2. 準備体操 等



- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。
- ・2人組で齋藤先生の指示どおりに動く(1=右手で握手して「こんにちは」と挨拶、2=左手で握手をして「よろしく」と挨拶、3=お互いの両肩に手を置き相手の名前を呼ぶ、4=ジャンプしながらハイタッチ)。次に数字を色に置き換え(1→赤、2→青、3→黄色、4→緑)、最後は数字と色を混ぜて指示する。
- ・全身を使いウエイトリフティングの動きを取り入れた動作でじゃんけんを行う。



### 3. 主運動 等



#### 八の字跳び (90秒×3回戦)

- ・2班に分かれ、制限時間内に跳ぶことができた合計回数を競う。
- ・作戦タイムを設け、いかに回数を伸ばすかを工夫する。

### 4. まとめ 等



- ・八の字跳びの結果以上に、どうすればより多く跳べるのかを必死で考えて、チャレンジすることが大切だと伝える。
- ・運動の時間を踏まえて、座学の時間でオリンピックバリューについて考えていこうと予告し、授業を終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（平成27年12月10日（木）2時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



・北京大会の映像を見ながら、ウエイトリフティング競技や北京大会で自己新記録を達成した時の心境等について話す。

2. オリンピックの価値を伝える 等



・生徒にオリンピックのイメージを問いかけながら、近代オリンピックについて説明。  
 ・自身の経験を交えて齋藤先生にとつてのオリンピックバリューについて説明。

エクセレンス：北京大会予選の3週間前に緊急入院することになったが、諦めずにリハビリに取り組み、北京大会出場の切符を勝ち取った

フレンドシップ、リスペクト：北京大会出場時、先に試合を終えた仲間が、齋藤先生の練習のサポートに駆けつけてくれたことに対して感謝の気持ちを抱いた



### 3. グループワーク 等



発問：①運動の時間の中で感じられた「オリンピックバリュー」について考えてみる。

②自分たちの日常生活の中にある「オリンピックバリュー」を考えてみる。

発表：エクセレンス＝縄を短く持つ、声出しをする、発表を積極的にする。普段の練習から手を抜かない、先生の話聞く  
フレンドシップ＝みんなが記録を出そうとひとつになれた、協力する、ミスをしてもしらあつた、つらい時に励まし合う  
リスペクト＝みんなが跳びやすいように縄を回した、皆の意見を尊重して作戦を立てられた

### 4. まとめ 等



・オリンピックバリューは、オリンピック選手だけの価値では無く、オリンピックを目指した人やみんなの日常生活の中にも大きく深く関係しているものであるため、今後も今日の授業で考えた事を意識して生活して欲しいと伝え、授業を終了。





■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

